

『臥龍梅』 蔵便り

平成二十七年水無月



拝啓 今年もアジサイの花の咲く季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。



今月をご報告することが盛りだくさんです。5/17(日)、菅原杜氏以下蔵人4名が無事造りを終了して岩手へ帰郷の途に就きました。昨年 9/23の蔵入りからざっと8ヶ月、本当に長い間ご苦勞様でした。蔵人たちが精魂傾けて醸したお酒はどれも自信をもってお奨めできる出来ばえです。皆様どうぞお楽しみに。翌週の5/21(木)には**横浜韓国総領事館の朱重徹(ジュ ジョン Chol)総領事**が来場されました。静岡市では徳川家康公顕彰400年、日中国交正常化50年を記念してさまざまな事業を展開しており、そのかわり静岡へ足を



を運ぶ途中、弊社に立寄られたものです。訪問の理由は、お酒が大好きで、静岡県のお酒が美味しいと聞いてネットで検索したところ、中でもわが臥龍梅の評価が一番高かったからとのこと。皆様ご承知のとおり、臥龍梅という銘柄は、家康が朝鮮からの通信使一行をおもてなしした清見寺に手ずから植えた梅の木にちなんで命名されたものです。なんとも浅からぬご縁を感じ、自宅にお招きしてご一献差し上げました。県知事さんと会談する前だったので、ほどほどにお勧めしましたが。その翌日5/22から5/23にかけて、**従業員は恒例の社員旅行**に出掛けました。京都を観光後、大阪で一泊、次の日はUSJというスケジュールです。開放感にあふれた笑顔をご覧ください。その翌日の5/24から5/27にかけ、小生はタイへ出張してまいりました。この春からお取引の始まった**アサナービス**さんという現地の卸店が展示会を開催するのに合わせての訪問です。バンコクは33年ぶりでしたが、現地に着いてビックリ。東京を上回る高層ビルやコンドミニウムが立ち並び、道路には新型の日本車や欧州車が溢れています。繁華街の至る所に日本料理店の看板が見えます。何より行きかう人々に熱気が感じられ、経済発展の勢いを感じました。展示会では日本語を勉強中のタイ人の大学生、バンクさんに通訳として手伝ってもらいました。お客様は料飲店の



経営者、仕入れ担当の皆さんで、邦人6割、タイ人4割といったところ。在留邦人だけでなく、タイ人の間でも日本食と日本酒が広がっているようです。わが臥龍梅の評判は上々で、展示会のこの日が実質上初のお披露目でしたが、新規のご注文を沢山いただき、バンコク市場に確かな手ごたえを感じました。ご報告することがもう1件。臥龍梅は**平成 26BY 全国新酒鑑評会で金賞**を受賞いたしました。沼津の酒販店、**酒の矢田さん**が早速こんなお祝いのメッセージを送って下さいました。受賞自体は勿論ですが、我がことのように一緒に喜んでくださる皆さんのお気持ちを励みに更に精進していく所存です。



さて、今月は引き続き**純米吟醸 涼風夏酒**をお奨めいたします。大好評をいただいて増産いたしました。どちら様もお見逃しなく！

梅雨明けのからりと明るい夏空を期待して

平成 27年 6月吉日

敬具
鈴木 克昌

